

青年農業者の育成・指導をする「三重県農業指導士（伊賀市内7名）」の南出紀光さんのもとで現在、三人の青年が元気いっぱい働いています。稲刈りで忙しい中、会いに行ってきました。

農業に夢を託す若者たち



全国的に農業就農人口の減少は深刻な問題。伊賀市は、高齢者（65歳以上）が80%を占めます。

南出千晶さん（19）—写真中央—

「将来のことは親からは言えないので、『（農業を）手伝っていいよ』と聞いた時には嬉しかった。」と母・和美さん。紀光さんの三女である千晶さんは小さい頃から、白菜を植えたり、よく仕事を手伝ってくれていたとのこと。昨年からはコンバインに乗り、堂々と稲穂の中を突き進む姿は大きく頼もしい。「将来は、まだ、はっきりしていないけど自分で作った作物を料理して販売してみたい。」夢を語る笑顔がチャーミング。



南出波輝さん（22）—写真右—

「理科が好きだから」と、白鳳高校生物資源科へ。植物の仕組みの面白さにはまり、三重県農業大学校では花きコースに学び花農家で農業体験をしました。伊賀で就農するのなら南出さんの所で、と勤めだして2年目になります。

「花が好きなので作ってみたいと思うが、今は学ぶことが多くて、毎日勉強です。」休日は仕事への充電タイム。一般家庭から就農を決めたと聞き、余計に応援をしたくなりました。



玉岡勇七さん（19）—写真左—

「小さい頃から、父親について米や野菜の配達に行った時、お客さんが喜んでくれる姿を見てやりがいを感じた。」と語る、米・麦を作る専門農家の次男坊。

後継者として自分でも何か作ってみたいと視野を広げるために2年間の研修を始めています。

土日休みのうち、1日は家の手伝いをしている元気ハツラツな好青年。

